

問題

金融政策の効果について、流動性のわなに言及しながら、IS 曲線と LM 曲線を示した図を用いて説明せよ。

解答のポイント

本問は、IS-LM モデルを用いて、金融政策の有効性を説明させる問題である。2 年ぶりにマクロ経済学の分野からの出題となった。本問では、金融政策が有効なときと流動性のわなの状態のときのそれぞれについて、図を用いて説明するため、いかにコンパクトにまとめることができるかがポイントとなる。

解答例

横軸に国民所得 Y 、縦軸に利子率 r をとる図に、財市場が均衡する際の国民所得と利子率の組合せの集合である右下がりの IS 曲線、貨幣市場が均衡する際の国民所得と利子率の組合せの集合である右上がりの LM 曲線をそれぞれ描く。

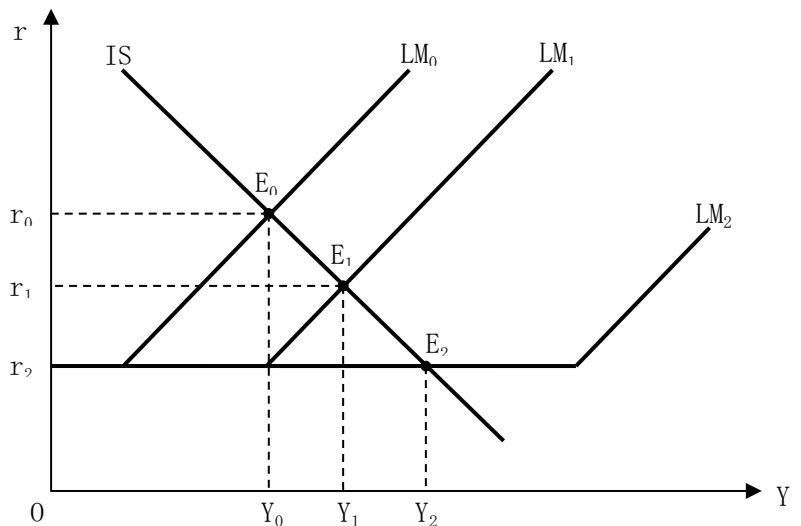
IS 曲線と LM 曲線の交点 E_0 において均衡国民所得 Y_0 と均衡利子率 r_0 が決定する。

中央銀行が金融政策を行い、貨幣供給量を増加させると、貨幣市場は超過供給となる。このとき、ワルラス法則により債券市場は超過需要となるので、債券価格は上昇し、利子率は低下する。すなわち、国民所得一定の下で貨幣市場

の均衡利子率が低下するので、LM 曲線は LM_0 から LM_1 へ下にシフトする。この貨幣市場の均衡利子率の低下によって投資が増加し、乗数過程を経て均衡国民所得が Y_0 から Y_1 へ増加する。結果として、新たな IS-LM 均衡は点 E_1 となり、金融政策は有効となる。

ところで、流動性のわなとは、利子率が下限に達し、貨幣需要の利子弾力性が無限大となっている状態であり、LM 曲線は下限の利子率 r_2 で水平になる。このとき、点 E_2 において金融政策によって貨幣供給量が増加しても、それが貨幣需要に全て吸収されるため、利子率は r_2 のままで低下せず、LM 曲線は下にシフトしない。よって、国民所得は Y_2 のままで増加せず、金融政策は無効となる。

以上より、貨幣供給量の増加によって利子率が低下し、投資の増加を通じて国民所得が増加するとき、金融政策は有効となる。



以上
(603 字)

本問は、IS-LM モデルの基本的な典型論点であったため、基本講義を受講した上で、「投資の利子弾力性および貨幣需要の利子弾力性と金融緩和政策の有効性」について、講義レジュメやV問題集で復習をしていれば、十分に解答できたであろう。